

特別講演

我国の医療の展望

○中川 雅夫

明治国際医療大学学長

要 旨

経済社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、我国の社会保障制度は様々な課題に直面している。経済社会の環境変化の中で最も重要なことは少子高齢化の進行であり、わが国の少子高齢化は他の先進国に例を見ないスピードで進行している。年金・医療・介護などいずれの面においても高齢者への給付が大きな比重を占めるようになってきている。一方では負担の主たる担い手としての現役世代の数は少子化のもとで減少していくことが予想されている。近年、我国の社会保障制度が財政上の困難に直面しており、国民の一人ひとりが少子高齢社会において社会保障制度の持続性をいかに維持していくかを考えていかなければならない時代にきていることになる。

我国の医療システムは、国民皆保険体制のもとで、これまで大きな成果を果たしてきた。昭和36年から実施されたこの保険制度は世界に例をみない優れた制度として外国からも評価されてきたが、この保険制度の実施以来、国民の医療費自己負担を軽減させるために昭和48年には老人医療費の無料化が実施された。しかし、やがて国民医療費の激増は財政上の大きな負担となり、昭和57年には老人医療費の一部負担が復活され、平成7年からは積極的な患者負担増加策に転じたことになった。平成14年には健康保健の患者負担が3割と大きな増加を強いるところとなったが、国民医療費の増加には抑制がかからず、平成18年には大幅な自己負担の増加を目的とした医療制度改革法案が成立した。激動する社会環境の中で、我国の医療や医療制度はいま危機に瀕しているといわざるを得ない。

こうした中で、本学においても我々は医療の現状を正確に理解し、医療という限られた資源を有効に活用するためにはどうすればよいか、また、医療者として今何をなすべきかを考え、認識を新たに行動することは重要であるであると私は考えている。本学で研究・教育・診療にあたる上での参考にしていただければと思っております。